

2026年3月期第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

開催日： 2026年2月9日(月)

登壇者： 常務執行役員 小関 仁孝(経営企画部・財務部担当)

Q. 企業変革費用は来期以降も計上するということが、このコストを除いた上での来期の利益成長ドライバーは何か。北米ユニットのさらなる効率化が見込めるのか、また今期苦戦している加工食品ユニット・食材流通ユニットの巻き返しについての解説をお願いしたい。

水産資源セグメントの北米ユニットでは、前期末より取り組んだ改善・効率化施策が一定の成果を上げている。しかし中期経営計画に沿った改善プロセスの途上にあり、来期もさらに踏み込んだ事業構造の改善・改革を進め、収益力向上を図る。

食材流通セグメントでは、水産商事ユニットが国内外で堅調に推移しており、引き続き伸長を見込む。食材流通ユニットも顧客基盤は拡大しており、人手不足対応ニーズの高まりを背景に事業拡大の余地は十分にある。次年度は、海外生産子会社などとの連携強化などによりコストコントロールを徹底し、収益改善を進める。農畜産ユニットについては、今期は、今中計で取り組んでいる事業構造転換と輸入冷凍豚肉のトレーディング損失が影響したが、第4四半期で在庫整理を完了予定なため、トレーディング損失は解消され、来期は一定の回復を見込む。

加工食品セグメントの加工食品ユニットでは、海外(タイのペットフード事業)は特に北米の需要を着実に取り込み、堅調な事業成長を維持しており、成長ドライバーの一つと位置付けている。一方、国内(市販用加工食品事業)については特に原材料を中心にしたコスト高や値上げ後の需給コントロールに苦慮したことなどの影響を受けて今期は減益着地の見込みだが、来期は自社工場の稼働安定化や需給コントロールの改善などを進めるとともに、今回の説明会で説明した「健康価値」を起点としたより差別化された事業展開を進め競争優位性を強化していく。

Q. 企業変革費用は主に第4四半期に計上される見込みと決算補足資料に記載されているが、第3四半期にはどの程度計上されたのか。

第3四半期までに計上している主な費用はパッケージ改定費用であり、各事業セグメントに計上している。また、本社移転に伴う一部費用を特別損失として計上している。

営業利益への影響は第3四半期では限定的であり、費用の多くは第4四半期に集中する見込みである。

Q. タイのペットフード事業が第3四半期に減益となっているが、その要因と来期の見通しは。また、為替影響や価格転嫁の状況は。

北米向けペットフード事業の減益要因は一過性のものであり、主にはドル安・パーツ高の進行による為替影響である。北米向けにドル建てで販売をするため、ドル安パーツ高の影響でバ

一ツ換算の売上が目減りした中、原料調達はバーツ決済の為、利益が影響を受けた。

第4四半期は関税影響による一時的な在庫の動きの変動はあるものの、前年並みの利益水準まで回復する見込みであり、足元の事業環境は堅調である。ペットフード市場は中長期的な拡大が見込まれており、来期も成長ドライバーの一つと位置付けている。

※当文書は説明会での質疑応答をすべて記録したものではなく、一部抜粋してマルハニチロ株式会社が編集を加えたものとなります。